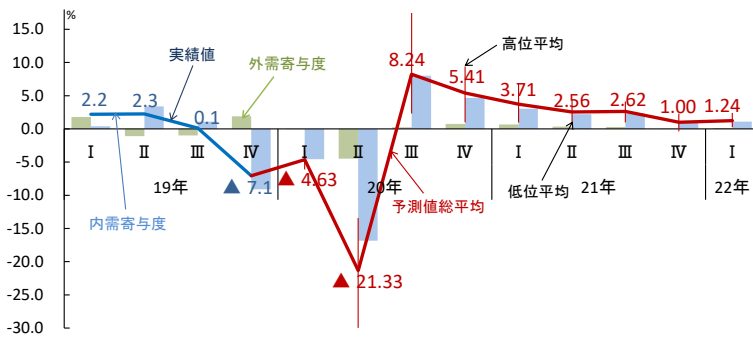


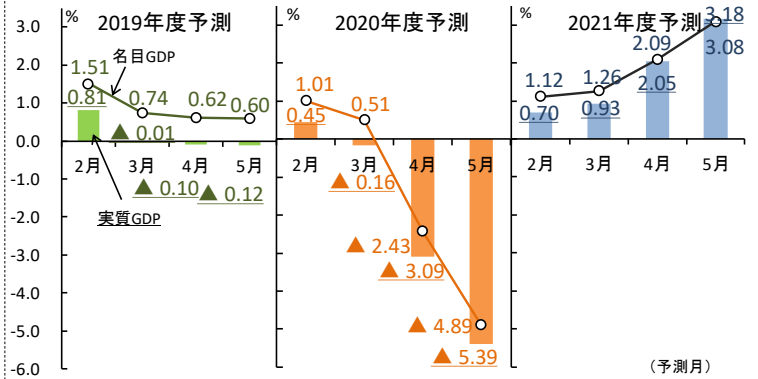
1 2020年4～6月期の実質経済成長率(前期比年率)は▲21.33%へ下方修正。7～9月期は8.24%。

実質経済成長率(前期比年率)は20年4～6月期は▲21.33%と前月特別調査より大幅に下方修正され、3期連続マイナス成長となる。7～9月期以降プラスに転じる見込み。



2 20年度の実質経済成長率は▲5.39%と下方修正、21年度はプラス3.18%。

実質経済成長率は、19年度、20年度ともマイナス成長となり、21年度にプラスに転じる。名目成長率は19年度はプラスだが、20年度にマイナスとなり、21年度はプラスに転じる見込み。

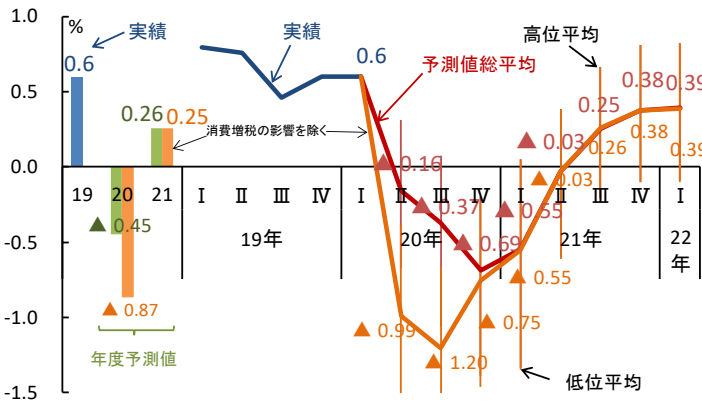


	2019年度	2020年度	2021年度
内需寄与度	0.0 (0.2/▲0.1)	▲4.5 (▲2.5/▲6.3)	2.8 (4.0/1.7)
うち民需	▲0.6 (▲0.5/▲0.8)	▲4.9 (▲2.9/▲6.5)	2.5 (3.5/1.6)
うち公需	0.7 (0.7/0.6)	0.5 (0.8/0.3)	0.3 (0.5/0.1)
外需寄与度	▲0.2 (▲0.1/▲0.2)	▲0.9 (▲0.1/▲1.8)	0.4 (0.9/▲0.1)
実質GDP成長率	▲0.12 (▲0.05/▲0.21)	▲5.39 (▲3.11/▲7.26)	3.18(4.38/2.01)

- (注1) 値の見方: 平均(高位平均/低位平均)
 (注2) 1・2の寄与度は簡易計算によるもので厳密なものではない。
 (注3) 2の4月調査は、特別集計の数値。

3 消費者物価上昇率(前年同期比)

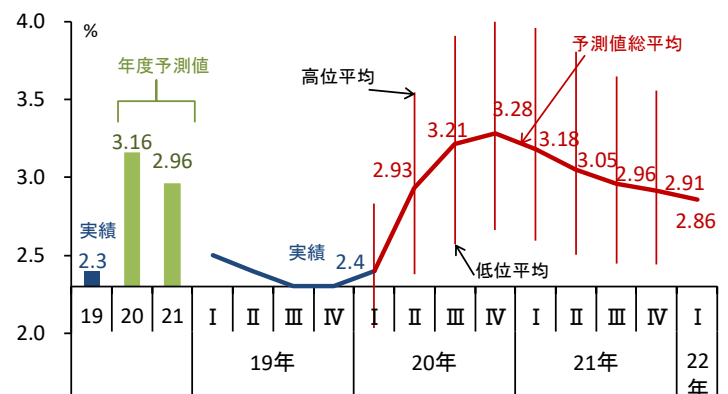
20年1～3月期の0.6%(実績)から、4～6月期にマイナスに転じ、10～12月期の▲0.69%まで低下した後、次第に回復。21年7～9月期にプラスに転じる。年度では、19年度の0.6%(実績)から20年度は▲0.45%となるが、21年度はプラスに転じる。



(注) 生鮮食品除く総合の前年同期比上昇率。

4 失業率

20年10～12月期の3.28%まで上昇、その後22年1～3月期まで低下する。



5 20年1～3月期の成長率（その他項目）

主要4項目以外の需要項目について、20年1～3月期の動きを尋ねた。前期比伸び率が上昇するという回答が多い項目は、「政府最終消費」だった。低下するとの回答が多かったのは「民間住宅投資」と「公的固定資本形成」だった。（回答数33、公的在庫変動は32）

(実質)	民間 住宅投資	民間 在庫変動	公的固定 資本形成	政府 最終消費	公的 在庫変動
上昇	0	15	6	30	1
横ばい	0	12	3	3	31
低下	33	6	24	0	0
回答数	33	33	33	33	32

(注) フォークキャスト数(名)。前期比伸び率の符号を質問し、プラスの場合に「上昇」、ほぼゼロの場合に「横ばい」、マイナスの場合に「低下」とした。在庫変動はGDP成長率に対する寄与度を尋ねた。

6 景気の転換点・・・12年11月が谷

12年11月の景気転換点(谷)(政府見解)の次の景気転換点(山)はもう過ぎたかどうかを聞いた。(回答数33)

・はい(=過ぎたと思う人)・・・32名(前月調査23名)

転換点(山)は2018年1月・・・1名、2018年10月・・・22名、2019年5月・・・3名、2019年9月・・・3名、2019年10月・・・3名

・いいえ(=過ぎていないと思う人)・・・1名(同0名)

転換点(山)を過ぎたと思う人にその次の景気転換点(谷)も過ぎたかどうかを聞いた。

・はい(=過ぎたと思う人)・・・0名(前月調査0名)

・いいえ(=過ぎていないと思う人)・・・32名(同23名)

今後1年以内に転換点(谷)がくる確率の予測の平均・・・65.6%(同64.5%)

(注) 前月調査は特別集計の数値。

7 (特別調査)金融政策と金利見通し

1) 金利見通し

20、21年末の短期政策金利と長期金利の誘導目標の見通しを尋ねた。短期政策金利は、20、21年末とも現行並みの「▲0.1%以上0.0%未満」が多かった。(回答数32)

長期金利の誘導目標も、20、21年末ともに現行並みの「0.0%以上0.1%未満」が多かった。(回答数20年32、21年30)

長短金利の予想値分布 (%)		▲0.3 未満	▲0.3 ～ ▲0.2	▲0.2 ～ ▲0.1	▲0.1 ～ 0.0	0.0 ～ 0.1	0.1 ～ 0.2	0.2 ～ 0.3	0.3 ～ 0.4	0.4 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0以上
短期の政策金利	現行=▼		▼										
	2020年末		1	1	30								
	2021年末		1	1	26	4							
長期金利の誘導目標	現行=▼		▼										
	2020年末				2	30							
	2021年末				2	23	3	2					

(注) フォークキャスト数(名)。例えば、「▲0.1～0.0」は「▲0.1%以上、0.0%未満」の意味。

2) 枠組み自体の変更

上記の見通しに関して枠組み自体の変更などを聞いたところ、マイナス金利の撤廃など6名のフォークキャストが答えた。
[詳細は9ページ参照]

8 (特別調査)米国の金融政策

20、21 年末の米国の政策金利（FFレート・市場実勢値）の予想を尋ねた。20、21 年末とも「0%以上 0.25%未満」が最も多かった。（回答数 32）

米FFレートの予想値分布(%)	▲0.75 ～ ▲0.5	▲0.5 ～ ▲0.25	▲0.25 ～ 0	0 ～ 0.25	0.25 ～ 0.5	0.5 ～ 0.75	0.75 ～ 1.0	1.0 ～ 1.25	1.25 ～ 1.5	1.5 ～ 1.75	1.75 ～ 2.0	2.0 ～ 2.25
2020年末			1	30	1							
2021年末				23	4	3	1		1			

(注) フォーキャスター数 (名)。例えば「0.75～1.0」は「0.75%以上、1.0%未満」の意味。

9 (特別調査)中国製造業PMI

中国製造業PMI（国家统计局公表）に関して、50 超を「上昇」、50 で「横ばい」、50 未満を「下降」とし、見通しを尋ねた。20 年 4～6 月期は見方が分かれたが、20 年 7～9 月期以降、「上昇」が増え、「下降」という回答はなくなった。（回答数 31）

	2020 II	2020 III	2020 IV	2021 I	2021 II	2021 III
上昇	15	23	22	23	23	23
横ばい	12	8	9	8	8	8
下降	4	0	0	0	0	0

10 (特別調査)オリンピック開催

今回の予測に、2021 年度のオリンピック開催を織り込んでいるかを尋ねたところ、31 名が織り込んでおり、1 名が織り込んでいないと答えた。織り込んでいない場合には、その理由を尋ねた。（回答数 32）

◆2021 年度のオリンピック開催を予測に織り込んでいるか

	はい	いいえ
オリンピック開催	31	1

(注) フォーキャスター数 (名)。

◆予測に織り込んでいない理由

①開催経費がどの程度膨らむのか見通せない	0
②再延期・中止の可能性も否めない	1
③その他	0

(注) フォーキャスター数 (名)。複数回答

11 (特別調査)新型コロナウイルス対策

今回の予測に、新型コロナウイルス対策としての財政出動を想定しているかを聞いたところ、32 名が想定していると答えた。（回答数 33）

その規模は、2019・20 年度の合計を平均でみて名目 GDP 比 5.71%である。高位 8 機関平均は 9.23%、低位 8 機関平均は 2.29%。（回答数 31）

◆新型コロナウイルス対策としての財政出動を織り込んでいるか

想定している	想定していない
32	1

(注) フォーキャスター数 (名)。

◆想定している財政出動の規模 (2019・20 年度合計)

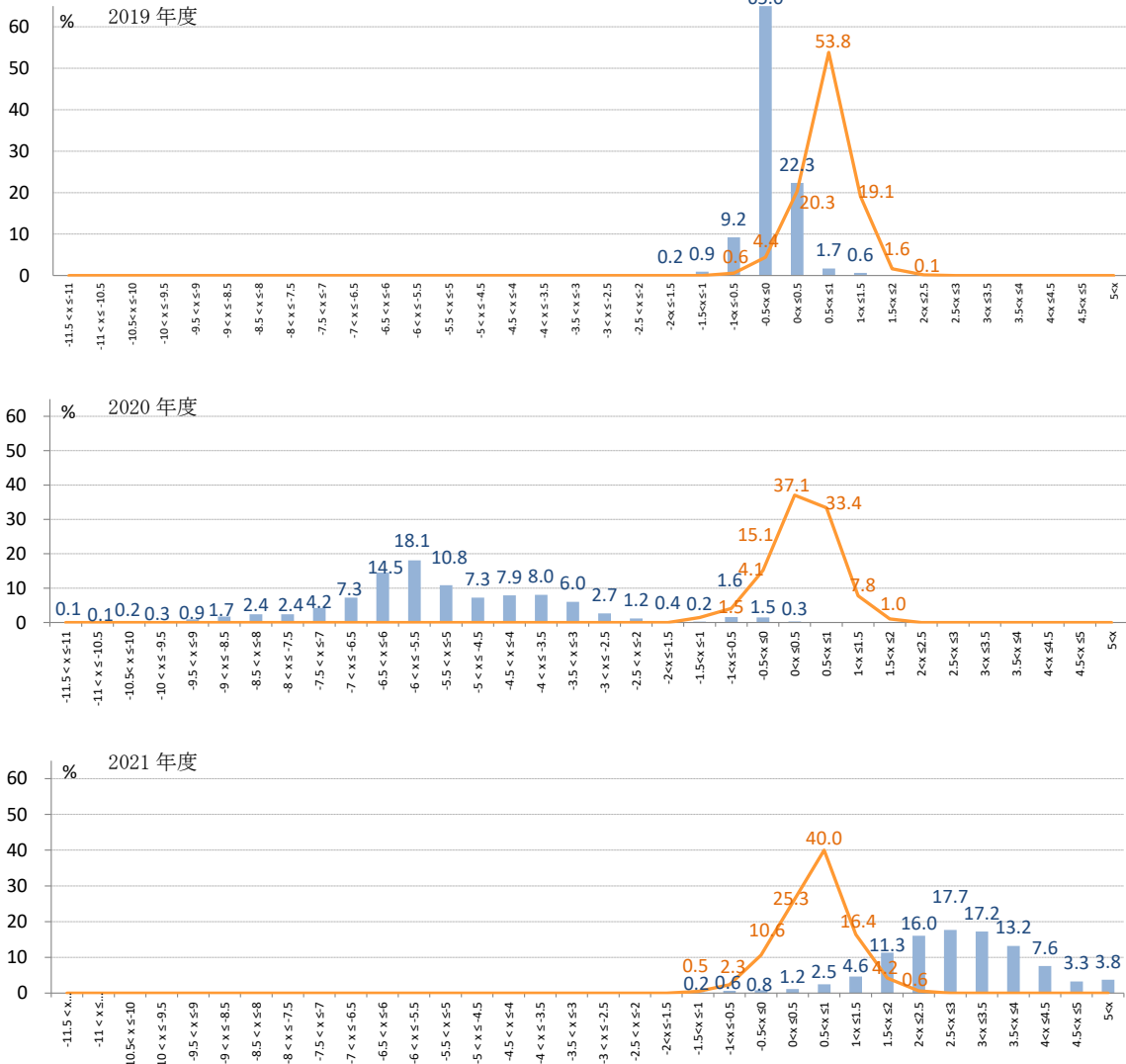
名目 GDP 比 (%)	5.71
--------------	------

(参考) 海外主要 3 カ国・地域の実質 GDP 成長率予測 (暦年、%)

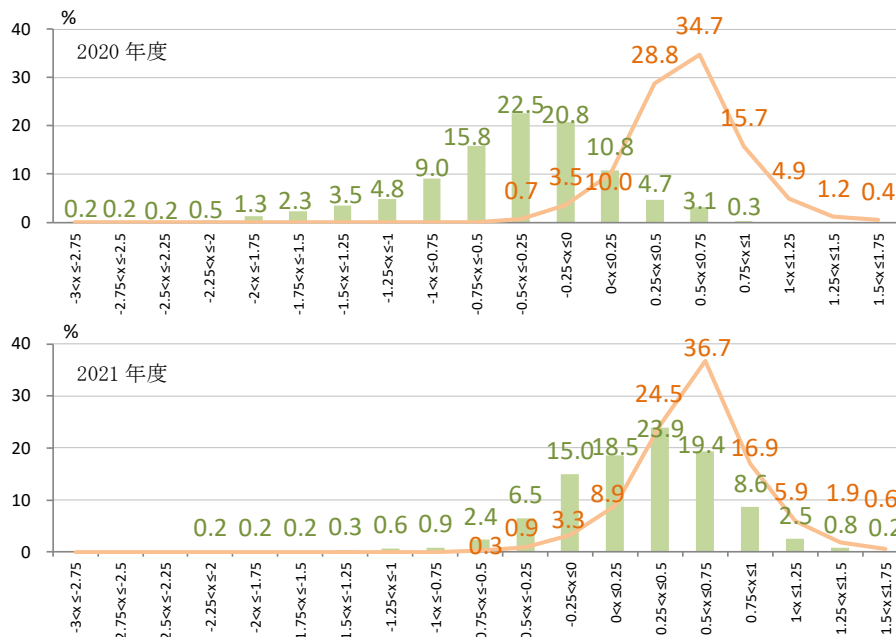
	米国	ユーロ圏	中国
2019 年	2.3	1.2	6.1
2020 年	▲4.93 (▲2.34)	▲6.46 (▲3.47)	1.39 (2.43)
2021 年	3.73 (2.77)	4.29 (2.73)	7.77 (7.01)

(注) 19 年は実績値。() 内は前月調査特別集計。

実質 GDP 増加率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



CPI(生鮮食品除く総合)騰落率のコンセンサス予測の不確実性 -各レンジの平均確率-



(注)各フォーキャスターが各レンジに付した確率の平均値。折れ線グラフは、20年2月の予測値。

次回 (2020年6月調査) の公表予定は6月16日頃